

祥明大學校短期研修に参加して

総合管理学部3年 仲野 愛理

9月17日から9月24日の8日間、私は祥明大學校短期研修に参加してきました。今回この研修に参加したのは、私にとっての韓国の魅力を見つけたいと思ったからです。以前、友人から「どうしてK-POPアイドルが好きなわけじゃないのに韓国が好きなの？」と質問されたときに、上手く自分の言葉で韓国の魅力を説明できない自分にもどかしさでいっぱいになると同時に心になにかモヤモヤするものが残りました。たしかに、K-POPもアジア各国に広まっている素晴らしい音楽文化ではありますが、韓国の魅力はそれだけではありません。しかし、そのほかの魅力が多くの人には伝わっていないことが残念に感じられました。そこで、この研修に参加して韓国の方と共に過ごし、旅行とは違う視点から韓国を見つめることで新たな気づきを得ようと思ったのです。

今回ホストファミリーとしてお世話になったユ・ユリさんは6月に短期研修で県立大にいらっしやっており、そのときに一度お会いしたことがあったため、すぐに打ち解けることができました。ユリさんのお家は京畿道の北西部に位置する坡州(パジュ)市にあり、時には2時間以上もかけて集合場所へ行かなければならなかったためきつい日もありましたが、坡州ならではの貴重な体験もできました。それは自由時間にユリさんと2人でオドゥサン統一展望台に行ったことです。ここは板門店とはちがいで、特別な許可がなくとも誰でも簡単に北朝鮮の風景を見ることができる展望台で、2キロほどある川のすぐ先には北朝鮮が見えます。望遠鏡を覗いてみるとあちらの建物や農作業をしている人の様子も確認できました。まさかこの研修でこのような体験ができるとは思ってもいなかったもので、とても感動しました。

↓展望台から見える風景(奥に見えるのが北朝鮮)



↓写真だと少し分かりづらいですが

望遠鏡を覗くと建物などが見えました



また、展望台の施設内にある統一念願室を見学した際に、若い世代の人は北朝鮮の数々の身勝手な行動から南北統一を願う人はほとんどいないが、家族と離れ離れになってしまったお年寄りの世代の方々の多くは今でも統一を望んでいるという話をユリさんから教えて

いただき、非常に複雑な気持ちになりました。見える距離に居ながら、自由に行き来することもできないという分断による悲惨な現実を感じさせられた体験になりました。

この研修に参加して、私にとっての韓国の魅力は「人」だと思えるようになりました。8日という短い間でしたが、私がお会いした人はみんなとてもよくしてくださいました。毎日日本語で案内をしてくれたユリさん、どんなに疲れていてもバスや電車で私たちに席を譲ってくれた祥明大の学生たち、お仕事が大変であるにも関わらず毎日ご飯を作ってくくださったユリさんのご両親、私たちが日本から来たことが分かって知っている日本語を絞り出して会話をしてくれた民俗村のスタッフやタクシーの運転手、私たちのために日本の歌を歌ってくれた漢江の遊覧船のシンガー、また時には通りすがりの人が「服にゴミがついていたよ」とそのゴミを払い落としてくれたり、ちょっとした階段を上るときにキャリーケースを持ち上げてくださったりすることまでもあり、韓国の人々の優しさに感動する毎日でした。面倒見が良く、いい意味でお節介で、人間味に溢れている。そんな韓国の人々が私にとっての韓国の最大の魅力です。この気づきは、短期研修に参加し、毎日ホストファミリーや祥明大の学生をはじめとする韓国の方々と関わったからこそ得られたものだと思います。最近ではメディアなどを通じて韓国についてあまり良くない報道がされることもあります。私は何度か旅行で韓国を訪れたことがあるだけなので韓国のすべてを知っているわけではありませんが、ひとつだけ言えることは、メディアが報じることも韓国のすべてではないということです。メディアからの情報を鵜呑みにしてマイナスイメージを持つのではなく、ぜひ多くの方に韓国へ足を運んでもらい、自分なりの韓国の良さを発見していただきたいです。

この8日間、毎日みんなで様々な観光地へ足を運び、美味しいものをたくさん食べ、楽しく笑いあい、ひとときだけではありますが韓国の大学生になれたような気分を味わうことができ、とても幸せでした。この研修の中で感じたことや思い出を胸に深く刻み、これからの生活に活かしていきたいです。そして、今回の出会いを今後も大切にしていこうと思います。このような貴重な経験をさせていただく機会を与えてくださったこと、この研修に関わってくくださった全ての方々に心から感謝いたします。ありがとうございました。

